

令和7年度病虫害発生予報第10号（2月予報）概要表

令和8年1月27日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 トマト（冬春栽培）</u>		
（1）灰色かび病		並
（2）葉かび病		並
（3）黄化葉巻病		並
（4）コナジラミ類		やや少
<u>2 きゅうり（冬春栽培）</u>		
（1）べと病		並
（2）うどんこ病		並
（3）灰色かび病		並
（4）アザミウマ類		並※
（5）コナジラミ類		並
<u>3 いちご（本ぼ）</u>		
（1）灰色かび病		並
（2）うどんこ病		並
（3）アザミウマ類		やや少
（4）ハダニ類		やや少
<u>4 茶の冬期防除対策</u>		
（1）チュウゴクアミガサハゴロモ		

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和7年度病虫害発生予報第10号（2月予報）

令和8年1月27日
埼玉県病虫害防除所

1 トマト（冬春栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（－）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
葉かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（－）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
黄化葉巻病	並	○1月中旬の発生量：並 □2月のコナジラミ類の予想発生量：やや少（－）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	やや少	○1月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は低い（－）	・本虫は黄化葉巻病を媒介するため、防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・マルハナバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 きゅうり（冬春栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（－）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
うどんこ病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（±）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・草勢低下は発生を助長するため、適切な肥培管理を行う。
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（－）	・多湿により発生が助長されるため、温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	並※	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（－）	・本虫は黄化えそ病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
コナジラミ類	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（－）	・本虫は退緑黄化病を伝搬するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・購入苗の場合は、到着時に病害虫の発生を十分確認する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

3 いちご（本ぽ）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（－）	・多湿により助長されるため、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い、降水量は少ない（±）	・草勢の衰えや過繁茂により発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
アザミウマ類	やや少	○1月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は低い（－）	・粘着板等によるモニタリングを行い、早期発見及び初期防除に努める。
ハダニ類	やや少	○1月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は低い（－）	・乾燥と気温上昇に伴い急増しやすいため、温湿度管理に注意する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・ミツバチ等に影響があると考えられる薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・生物農薬（天敵）を使用している場合は、悪影響がないよう薬剤の選択に注意する。			

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 茶の冬期防除対策

病虫害名	防除上注意すべき事項
チュウゴク アミガサ ハゴロモ	・10月9日に発表した「注意報第8号」(参照2)を参考に防除対策を実施する。 ・11月13日に発表した防除情報(参照3)を参考に、産卵された枝の切除と適切な処分を行う。 ・本虫のふ化は3月頃に始まると予測されるため、産卵された枝はそれまでに適切に対処する。

参照2：令和7年度病虫害発生予察注意報第8号

「植木類・チャ・果樹類・宿根アスター等、チュウゴクアミガサハゴロモ」(令和7年10月9日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r7-8.html>

参照3：「チュウゴクアミガサハゴロモが多発しています！」(令和7年11月13日)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20251113cha.html>

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

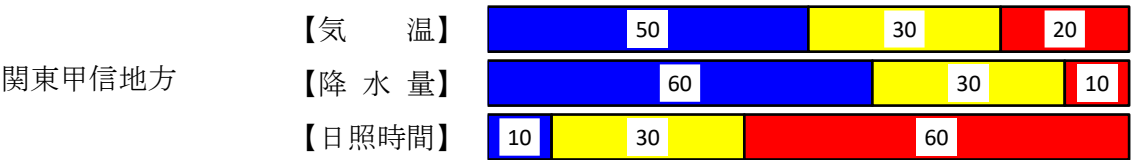
- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和 8 年 1 月 22 日発表)
出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/jp/longfcst/103_00.html)

＜予報のポイント＞

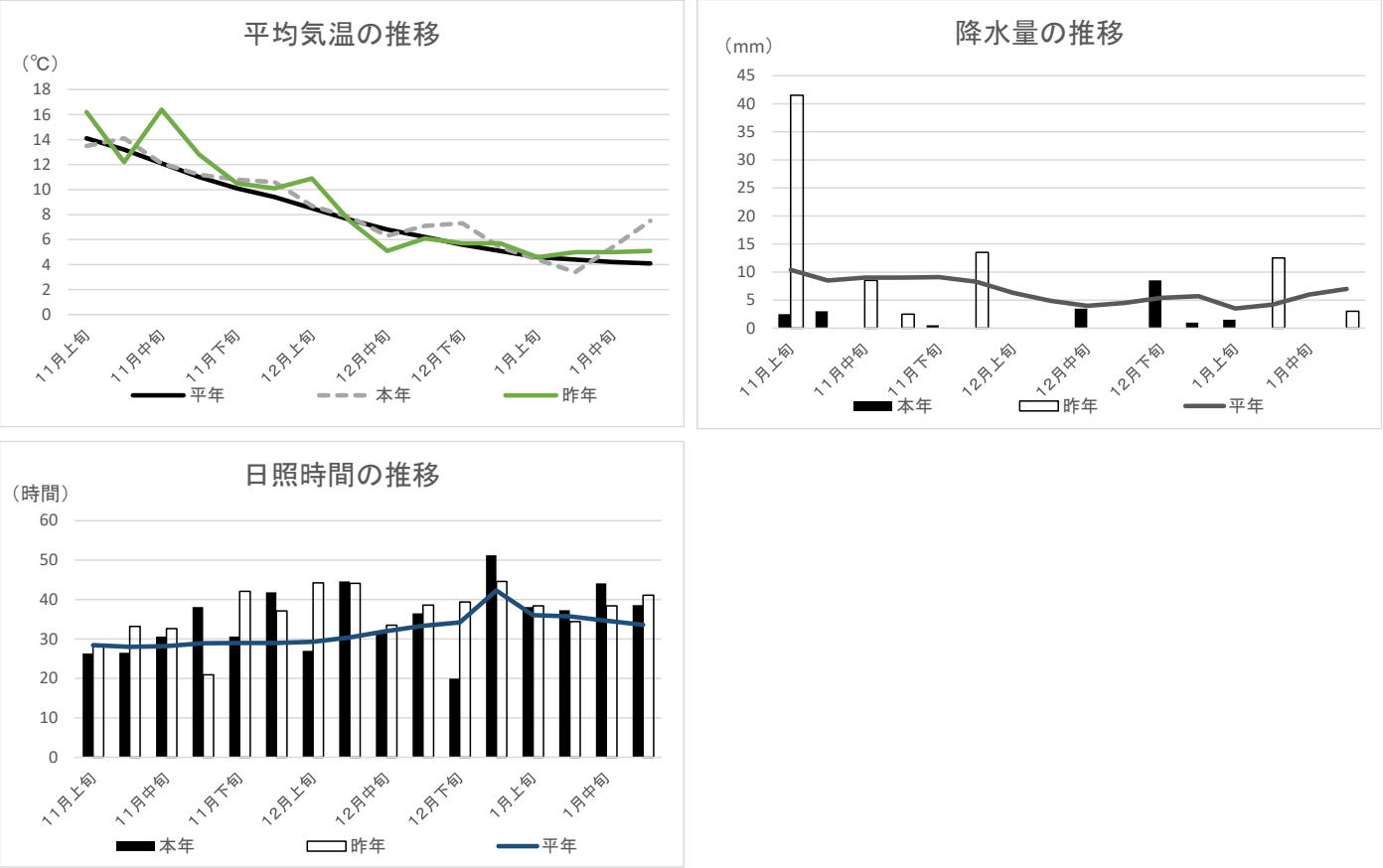
- ・寒気の影響を受けやすい時期があるため、向こう 1 か月の気温は、低いでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくい時期があるため、向こう 1 か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
埼玉県病虫害防除所
〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>